（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）
神奈川県教育委員会教育長　殿

令和２年３月 31 日
県立湘南養護学校長

平成 31 年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標（平成 28 年度策定）	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月16日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	保護者（12 月9日実施） 学校評議員（2月 27 日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	(1) 小学部・中学部・高等部を通して、ライフステージを見据えたキャリア教育の指導を充実させる	「キャリア教育」の視点を活かした教育実践を活用するとともに、児童・生徒の主体的・対話的な学びの実現を図る	①湘南養護ブランド集や教材フォルダを積極的に活用して、授業改善を行う ②児童・生徒の主体的・対話的な学びについて研究をすすめ、授業づくりにいかす	①湘南養護ブランド集や教材フォルダを積極的に活用して、授業改善を行えたか ②児童・生徒の主体的・対話的な学びについて研究をすすめ、授業づくりにいかせたか	①教材フォルダ内の指導案、手順書、完成写真を活用し、授業つくりを行い、さらに蓄積ができた。シラバスを活用して、授業内容を計画し、生徒の実態に応じた教育活動を展開できた。 ②学部研究において、主体的・対話的な学びについて、授業実践と協議を積み重ね、児童生徒につけたい力を各学部で整理し、主体的な学びを引き出す授業づくりを行うことができた。	①湘南養護ブランドステーションの構築を図り、系統的な教育内容の充実を行う。 ②授業案に「主体的・対話的で深い学び」の観点をいれ、授業実践を行う。学習指導要領の理解をすすめ、実施する。	・個別教育計画の充実と活用について期待する保護者が52％であった。（保護者評価） ・湘南ブランドステーションの取組みをぜひすすめてほしい。	・教材フォルダやシラバスの活用を行い、授業改善を行った。 ・「主体的・対話的」な学びについて、研究をすすめ、授業つくりにいかした。	・湘南養護ブランドステーションの構築をすすめる。 ・学習指導要領の理解をすすめるための取組みが必須である。
		(2)個別教育計画に基づいた授業実践と評価を進め、児童・生徒の課題改善に向けて関係者と話し合いながら取組む	個別教育計画の作成を組織的に進め、活用を図る	①客観的なアセスメントを基に児童・生徒の的確な実態把握を行う ②専門職等と連携した児童・生徒の明確な目標設定や具体的手立てを、個別教育計画に反映させ、授業実践、評価につなげる	①客観的アセスメントを基に児童・生徒の的確な実態把握ができたか ②専門職等と連携した明確な目標設定や具体的手立てを、個別教育計画に反映させ、授業実践、評価ができたか	①NC プログラム、太田のステージ、大塚の指標、センターアセスメントを用いて実態把握を行い、課題別学習や個別教育計画の作成、評価に反映させることができた。 ②専門職、養護教諭、進路担当と連携して、児童生徒のアセスメントを多角的に行い、明確な実態把握や目標設定、指導の手立てを考察し、個別教育計画に反映させた。専門職による定期的な参観とフィードバックは、個別教育計画に基づいた指導の実践と授業改善に有効であった。	①NC、太田のステージの活用の仕方を学校全体で研修し、さらに活用をすすめる。SM 社会生活検査を実施する。（高） ②専門職等との連携をさらにすすめるとともに、アセスメントの結果を計画に反映できる方法を検討していく。		・アセスメントを用いて児童生徒の実態把握を行った。アセスメントの活用についての研修が望まれる。 ・専門職による観察とフィードバックは有効であった。	・NC、太田のステージ等の研修会を行い、活用をすすめる。 ・アセスメントの結果をより個別教育計画に反映できる方法を検討する。
2	児童生徒 指導支援	(1)コミュニケーションツールの活用を図り、児童・生徒の「生きる力」を育む指導を行う	児童・生徒一人ひとりに適したコミュニケーションツールの獲得と活用を図り、卒業後の活用につなげる	①個々の実態に応じたコミュニケーションツールの活用を図り、小中高のつながりを考えた活用について共通理解を図る ②卒業後の活用に向けて、高等部実習時に活用するとともに、家庭との連携、地域への啓発活動を行う	①個々の実態に応じたコミュニケーションツールの活用を図り、小中高のつながりを考えた活用について共通理解ができたか ②卒業後の活用に向けて、高等部実習時に活用するとともに、家庭との連携、地域への啓発活動ができたか	①児童生徒の実態に応じたコミュニケーションツールを活用し、意思の表出を引き出すことができた。個々の変容と成長に合わせて、発展的解消も含めたツールの工夫を行った。iPad やアプリ等 ICT 機器を活用した取り組みがすすんだ。教材研修会や相談支援研修会において、各学部の取り組みを共有し、共通理解を図り、他学部の取り組みを積極的に授業づくりにも活かした。 ②ツールの家庭での取り組みについて、通信等を使い発信した。保護者学習会を実施し、家庭での取り組みにつなげた。高等部現場実習時に、コミュニケーションツールを活用し、事業所への広がりも見られた。	①年度のはじめに、サインやコミュニケーションツールについて全校で確認する機会をつくり、実態に応じたツールの活用をすすめる。 ②家庭や地域への発信をさらにすすめる。	・コミュニケーションツールの活用は、学校での取組みを事業所でも引き継いでいきたい。事業所向けの学習会を行ってほしい。 ・iPad の活用は、就労している社員にも有効であると思う。ぜひ活用をすすめ、発信をしてほしい。 ・保護者学習会で作成したカードを毎日家庭で利用している。音声言語での理解表出もできるが、絵やイラストは効果的である。	・コミュニケーションツールの活用がすすむとともに、小中高のつながりを考えた活用について共通理解を図り、授業つくりにもいかすことができた。 ・保護者学習会を実施した。実習時にツールの活用を行い、事業所への広がりも見られた。	・年度はじめにサインやツールについて全校で確認する機会を設け、より一層全校での共有を図る。 ・ツールの活用について、事業所対象学習会を実施し、発信を行う。
		(2)生命や他者への思いやりの大切さを重視し、児童・生徒の人権に配慮した指導を行う	人権に配慮し、児童・生徒指導に教職員が共通理解をもって取組む	①児童・生徒の指導において、言葉かけや身体的な距離感に配慮した対応を行う ②学校生活アンケートや聞き取りを丁寧に行い、いじめ防止に取り組む ③児童・生徒情報交換会や緊急時対応訓練、生活指導連絡会等を通して教員間での情報を共有し、児童・生徒の特性に応じた対応を行う	①児童・生徒の指導において、言葉かけや身体的な距離感に配慮した対応をすることができたか ②学校生活アンケートや聞き取りを丁寧に行い、いじめ防止に取り組めたか ③児童・生徒の情報を教員間で共有し、特性に応じた対応をすることができたか	①児童生徒の人権を尊重し、自己肯定感を高める指導を行った。生徒同士も「さん」とつけて呼び合うことができるようになってきている。場面によっては、年齢不相応な言葉かけもみられた。 ②いじめ防止研修ツールを活用してグループ協議を行い、参加型研修会を実施し、いじめ防止に取り組んだ。学校生活アンケートを行い、アンケート後に丁寧な聞き取りを行い、安心して学校生活を送れるよう配慮した。 ③情報交換会や、生活指導連絡会、ケース会を通して、児童生徒の情報を共有して、未然に問題を防止する体制つくりを行った。保護者や放課後等デイサービス等との連携を図り、児童、生徒の特性に応じた対応を行った。	①研修会や学部会等の機会を通じて、年齢相応の人権に配慮した言葉づかいや接し方について、さらに意識の向上を図る。 ②心理士と連携したいじめ防止の授業実践をすすめる。参加型いじめ防止研修会を継続する。 ③生活指導連絡会を有効に活用して、学年をこえた指導の共有を図る。	・人権の保障として「さん」づけはとても良いと思う。場面の区別が難しい児童生徒に対して、「さん」づけ呼称や、丁寧な言葉を、日常的につかうことが必要であると思う。	・人権に配慮した言葉かけ等意識して行ったが、より一層の意識の向上が必要である。 ・いじめ防止、児童生徒の情報共有を図った。	・年齢相応の言葉づかいや接し方について、折にふれ研修を行い、徹底を図る。 ・参加型いじめ防止研修会を継続して行う。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 保護者(12月9日実施) 学校評議員(2月27日実施)	総合評価(3月16日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導 支援	(1)児童・生徒の実態に応じた安全で健康な暮らし方や社会的ルール、マナーを守る態度を養う	個々に応じた人とかかわる力、社会生活に必要な態度・技能を養う	①わくわくひろば（小）、ふれあいタイム、いきいきタイム（中）での学習を通して友だちとのかかわりを増やし、協力する学習活動を設定する ②「自分を振り返ろうシート」高）を活用して、自分自身をみつめ、時間の厳守、挨拶、返事、言葉遣い等のスキルが身につくよう指導する	①わくわくひろば等での学習を通して友だちとのかかわりを増やし、協力する学習活動を設定できたか ②「自分を振り返ろうシート」を活用して、社会生活に必要なスキルが身につくよう指導ができたか	①合同授業では写真カード等を用いて、一緒に活動する友だちを視覚的に意識できるように指導を行い、意識の向上を図った。(小)学部全体での学習を通じて、他学年の生徒同士のかかわりが増え、生徒同士で相談して、遊びを見つけて活動する場面が見られた。(中) ②シートを活用して、人との関わりや社会生活で必要なスキルの獲得を目指した指導を行い、生徒自身が日々の生活や実習で意識できるようになった。指導時間が明確になっていなかったため、有効に活用できなかった面もある。(高)	①ペアでの活動を多く取り入れ、児童生徒同士が関わる場面を、意図的に設定する。 ②年度はじめに、シートの活用の確認と、指導時間の明確化を図る。	・進路情報に関する早目の情報提供と情報の拡大を求める意見があった。 ・また進路指導の充実を求める保護者が 45％であった(保護者評価)	・学部全体の学習を通して、友だちとのかかわりを増やし、人と関わる力の基礎づくりを行った。 ・シートの活用を通して、自分自身をみつめる態度と意識の向上を図った。 ・小学部段階からの進路指導の充実を図るべく、職員の研修と研鑽を行った。 ・センターアセスメント、キャリアアセスメントを活用した進路指導、他機関と連携した進路指導を行った。	・ペアでの学習をさまざまな場面で設定していく。 ・シートの活用の確認と、指導時間の明確化を図る。 ・学部に応じた研修会を実施する。 ・早い段階からアセスメントを活用し、より適切な実態把握と共有を行う。
		(2)きめ細やかな進路相談を行い、児童・生徒・保護者の個々のニーズに応じた進路指導を推進する	生徒一人ひとりに応じた進路選択ができる進路支援を行う	①アセスメントを基に保護者への情報提供や聞き取りを行い、ハローワークや社会自立支援員等の他機関と連携した進路支援を行う	①アセスメントを基に保護者への情報提供や聞き取りを行い、ハローワークや社会自立支援員等の他機関と連携した進路支援が行えたか	①高等部作業を小学部教員が見学して、小学部段階から身につけたい力について考察した。(小)中学部作業学習を通じて、あいさつや報告を自分からできる生徒が増えた。作業について進路担当からの助言を授業改善につなげた。(中)センターアセスやキャリアアセスを実施して、生徒の実態把握を行い、進路指導に反映させた。(高)教員対象事業所見学会に 38 か所のべ 106 名(H30 29 か所 75 名)が参加した。	①学部に応じた研修会等で、小中教員も進路についての研鑽を深める。早い時期からセンターアセスを活用し、実態把握と保護者との共有を行い、進路指導に活かす。			
4	地域等との協働	(1)地域の学校への支援に組織的に取組み、地域の教育力をつけ、インクルーシブ教育の理解と浸透を図る	地域と連携して特別支援教育の理解、推進に取り組む	①「湘南養護学校だより」やホームページ、学校へ行こう週間を活用して、湘南養護ブランド等について情報発信を行う ②放課後支援事業所対象のプール開放や夏季レク、作品展を行い、地域とのつながりを深め、学校の様子を発信する	①たよりやホームページ等各部が連携して、情報発信を行うことができたか ②放課後支援事業所対象のプール開放や夏季レク、作品展を行い、地域とのつながりを深め、学校の様子を発信できたか	①おたよりや学校案内で、スケジュールの活用や絵カード交換式コミュニケーションについて掲載し、湘南養護ブランドの発信を行った。PTA の協力のもとの FM ナパサでの紹介やホームページを活用して、情報発信を行った。作品展来場者は 2 日間で169人(H30　100人超)だった。 ②プール開放利用者はのべ 45 団体、705 人(H30　35 団体、586 人)の利用があった。学校警備員の配備が行われ、体育館および会議室の開放がはじまった。	①学校案内をさまざまな場面や場所で配布し、学校の特色の発信とともに、特別支援教育の理解啓発を行う。 ②施設開放についての周知をすすめ、地域とのつながりを深める。	・障がい児についての啓発活動について意見があった。(保護者評価) ・積極的に地域に出て、湘南養護学校を「見える化」してほしい。 ・自治会の子ども神輿の担ぎ手が減っている。湘南養護の児童生徒も、地域の子どもとして参加してもらってもよいとの話もある。地域とのふれあいの場、成長の機会になるのであれば、参加してほしい。 ・地域との交流では、特支校の生徒だけでなく、地域の生徒の学ぶところが多いと思う。ぜひ継続してほしい。	・学校の特色や湘南ブランドの情報発信を行った。 ・プール開放は利用者が増加した。体育館、会議室の開放がはじまったが、実績は少ない。 ・居住地交流、学校間交流の回数や内容の充実を図った。 ・地域の資源を活用した学習活動を行った。	・学校の「見える化」をすすめるとともに、特別支援教育の理解啓発を促進させる。 ・施設開放の周知を行い、地域とのつながりを様々な形で広げ、連携を強化する。 ・交流をよりすすめ、共生社会の実現に向けて、地域への発信を行う。
		(2)交流及び共同学習を充実させ、地域と連携した学校づくりを行う	居住地交流・学校間交流を継続・発展させるとともに、積極的に地域資源を利用した学習活動を行う	①居住地交流の回数や内容の充実を保護者や相手校と連携して行うとともに、学校間交流の内容の充実を図る ②積極的に校外に出かけて、地域資源を活用した学習活動を行う	①居住地交流の回数や内容の充実を保護者や相手校と連携して行えたか。また学校間交流の内容の充実が図れたか ②積極的に地域資源を活用した学習活動が行えたか	①居住地交流の回数や内容の充実を図り、児童生徒の地域での活動の幅を広げた。 小:18 名 42 回(H30　33 回)　中:5名9回実施。学校間交流　支援級3回通常級と4回実施。中原中と交流。うち1回はドッチビー協会講師を招いた教室を開催。高浜高校との作業学習交流。講師を招いてサッカークリニックを開催。 ②平塚市役所での展示即売会で高等部作業班製品を販売し、地域の方との交流を行うことができた。中原公民館の清掃作業を行い、地域の方との交流と地域貢献を行った。	①引き続き居住地交流、学校間交流の内容の充実を図る。地域の人材を活用した交流内容の充実をすすめていく。 ②地域資源を活用した地域貢献活動の充実を行い、地域と連携した学校づくりをすすめる。			
5	学校管理 学校運営	(1)児童生徒が安心して過ごせる教育環境の整備と危機管理体制の確立を図る	児童・生徒が安心・安全に活動できる教育環境を整備と危機管理体制の充実を図る	①地域との協働を図り、様々な場面設定での防災訓練を実施する ②環境整備や安全点検を計画的に実施し、児童・生徒が安全に活動できる環境を整える	①地域との協働を図り、様々な場面設定での防災訓練を実施できたか ②環境整備や安全点検を計画的に実施し、安全に活動できる環境を整えることができたか	①避難訓練では、地震、津波、火災の設定をし、それに応じた避難経路での訓練を実施した。平塚パワーズ、災害対策課、消防署職員の方を講師に招いた、研修会や訓練を実施し、学校全体の防災意識の向上を図った。高等部では DIG(災害図上訓練)を内容に取り入れた授業を行うなど、防災教育も積極的に実施した。 ②安全点検の定期的な実施や行事前の特別清掃を行い、安全に活動できる環境を整えた。校内の備品の管理の徹底や、不用品の処分を行い、職員の働きやすい環境も整え、効率的な学校運営につなげた。	①訓練前後の学部ごとの話し合いを充実させ、より一層の防災意識向上を図る。地域との連携を強化する。発達段階に応じた防災教育の充実を図る。 ②環境整備は不十分な面がある。事務職員、技能員との連携を図り、校内の教室環境整備をさらにすすめる。	・専門性の向上に期待する保護者が46％であった。(保護者評価)	・様々な場面設定での訓練を行うとともに、地域の訓練への参加等地域との協働を図った。 ・安全点検の確実な実施や不用品の処分、備品の管理の徹底を行った。 ・専門性の向上のための研修会を実施した。学校行事の見直し、業務の見直しを随時実施した。	・地域との連携を強化した訓練を実施するとともに、防災教育の充実を図る。 ・環境整備をよりすすめ、児童生徒が安全に活動できる環境を整える。 ・業務のスリム化と継承を行うことで、学校全体の組織力をあげる。
		(2)組織力をつけ、教職員の学校運営意識の向上を図る	高い専門性をもった人材育成に取組む	①研修や 0JT による専門性の向上や業務の精選、継承を行う	①研修や 0JT による専門性の向上や業務の精選、継承が行えたか	①研修会の実施や研究授業・協議等による専門性の向上を図った。日々の業務のマニュアル化、業務の見直しを適宜行った。	①専門性の向上に向けて継続的に研修を行う。学校行事の見直しや効率化、業務改善をさらにすすめ、児童生徒の指導のための時間の確保を行う。			